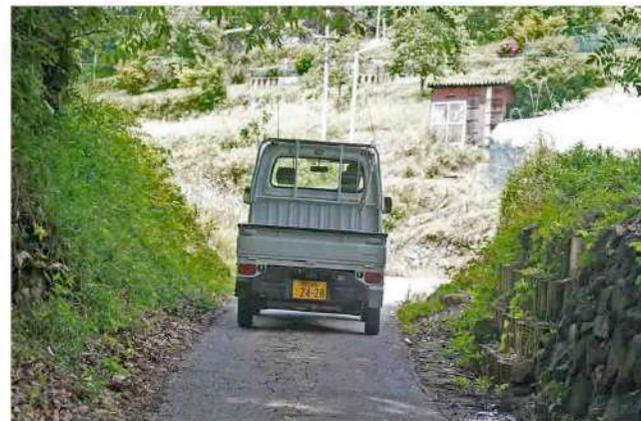


2023.6.9

とと道トレイル成羽=吹屋ルート現状報告

By HK



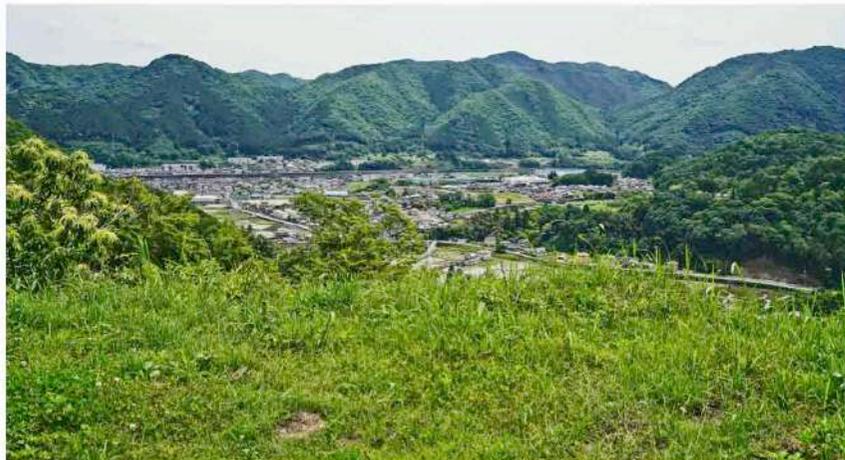


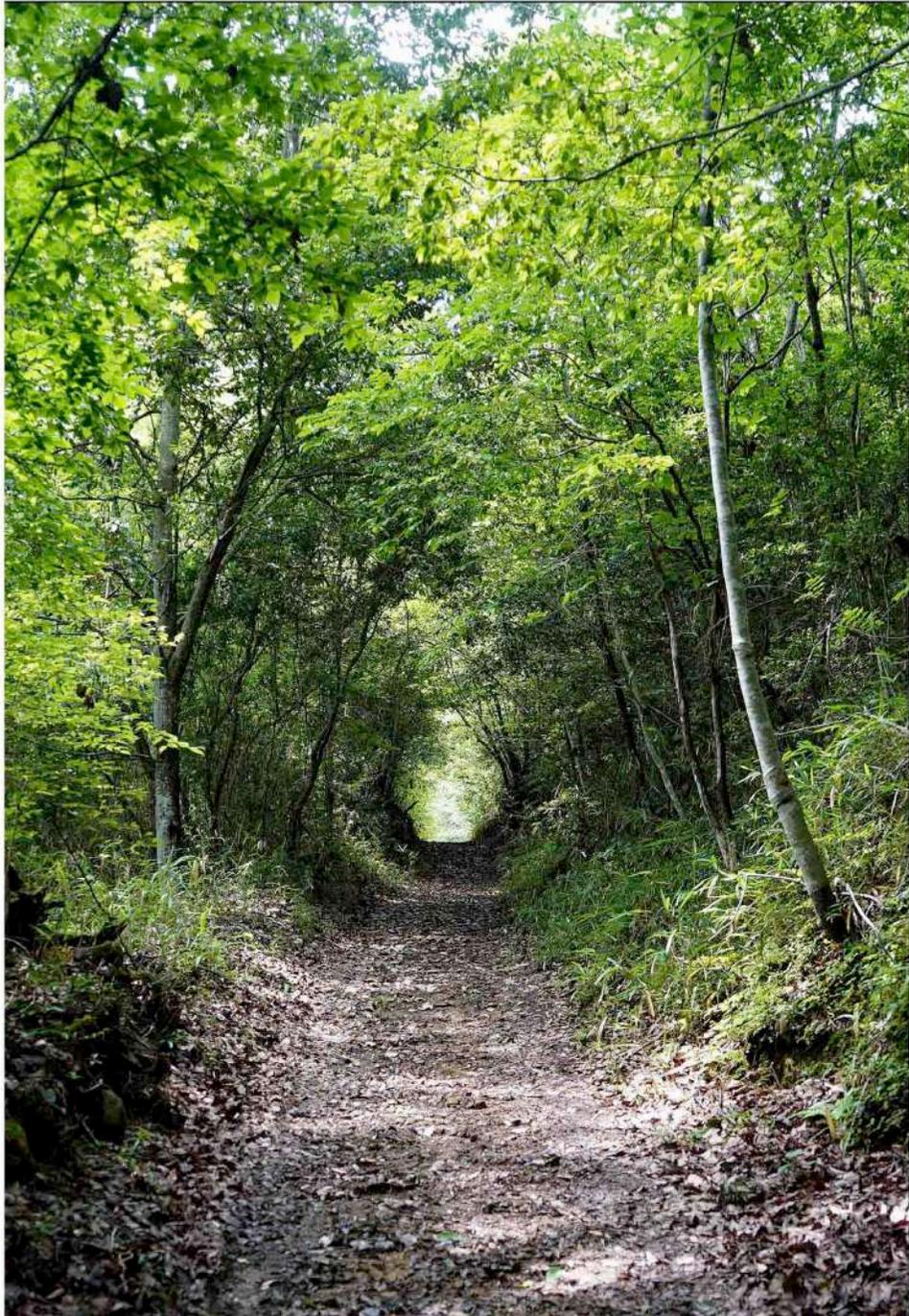
本日は高梁で所用がありそのあと2人の協議会メンバーと共にとと道コース調査を実施。アッシー君のおかげではからずも短時間で成羽-吹屋の調査ができました。



水道記念碑の先の崖崩れ現場ではようやく上部の崖の修復事業が始まりました。発生から5年目です。

足は12万KM走破の軽トラ。下の新張丁で窓坂が見えるぞとお2人に紹介。新見の殿様一行がここから降りてくるのを見て新張丁の人々がお迎えの準備を始めたとの話を思い出してもらいました (P42)。おかげで最初の東砂の急坂は車でスイスイの登り、コースも問題無し。途中の展望台からは新緑の成羽市街が遠望できました。問題は深埜の化石説明看板。防水ができていないのでちょっと惨めな状態に。これを協議会デザインに代えたものかどうか？味が有る看板だけに皆さんのご意見を承りたい次第。





新緑の窓坂と成羽遠望



とと道遺構の末端



とと道の春のゴソの様子は一体どうなんだろう、ということで4月以来問題の有りそうな地点を杜甫、自転車、車で回ってみました。最後がこの成羽一吹屋間です。昨年の秋以降整備はしていない筈ですが全体としてはスッキリしていました。



菊屋地蔵



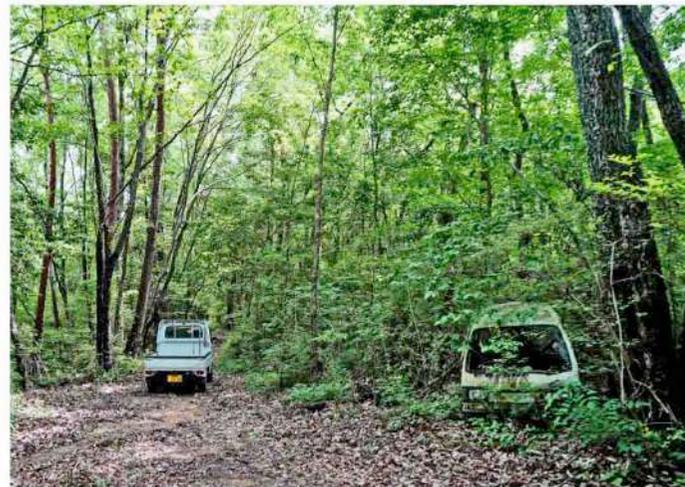
牛馬水飲み場

車組には僕が戻るまで下で待ってもらおうつもりでしたが、次の車道ととと道遺構の合流点に先行すると連絡が入りました。これはありがたいと峠の反対側に急いで下ると何と軽トラが逆方向から途中まで迎えに来てくれました。愛らしき軽トラの姿です。



吹屋よいとこ 金吹く音が
聞こえますぞえ 窓坂え
吹屋よいとこ 金掘るところ
掘れば掘るほど、金が出る場所
じゃ場所じゃ 吹屋は場所じゃ
東城やせ馬 来る場所じゃ





窓坂下からは宇治への山道入口まで車で直行。「吹屋往来とと道」と書かれた看板に従い山道へ入ると徳森さんがコンボで開鑿した「徳森ロード」となります。徳森さんはいずれ長い距離を歩けなくなっても軽トラで入って道の整備ができる様にと、藪で覆われていた踏み跡を旧道並の中に整備しました。おかげでぼくも佐野さんの11万kmを走った4輪駆動軽トラで途中まで往復できます。道の両脇にはちゃんと水路が掘られていますが流水でえぐられて必要以上に深くなっている部分があります。車輪がずれて落ち込むと4輪駆動以外では脱出できない恐れも有ります。途中高圧線の下で明るく開けた所ではさすがに雑草が茂っていましたがこの時期では歩くに支障はありません。ほどなく迷いの「二股分岐」。道端に放棄され朽ちつつあつ軽トラが目印です。ここで右に登り気味に行くといつの間にか松原方面へ向かい、302号線に出てしまいます。左に向かうと「後谷」への幻の稜線道の入口が現れます。



道は実に見事に整備されています。しかし、ここまでなるには徳森さんの窓坂地区の整備に始る4年にわたる大変な努力が有りました。整備の途中で軽トラのタイヤが木の切り株に乗り上げパンクし、暮れ行く中、修理に1時間以上かかったことも有ります。ほどなく右手から道が合流します。先ほど二股で別れた右へ向かう道につながる道ですが、全面笹藪に覆われ道とは見えません。それこそ徳森さんが開鑿する前の姿です。その10mほど先の右手に2つの看板が立っています。ひとつには「後谷坂入口 X通行禁止」、もうひとつには「とと道」と書かれています。枯木が左右に渡してありますがその奥は単なる藪です。しかし、そこそは急な稜線通しに西北西に向かい、後谷へと下る本来のとと道の入り口です。この地点は宇治から松山へ向かう松山道と、とと道の交叉する場所なのです。しかし「X 通行禁止」とあるのは、後谷へ下る稜線の末端部分が昭和30年代に伐採された大量の杉の丸太で塞がれ歩行困難なため入場を制限しているのです。協議会としては杉の撤去を検討はしましたがとても処理できる量ではありません。2つ看板が有っては紛らわしいので今回、「X通行禁止」の看板は撤去しました。将来ここが通れるようになることを期待したいものです。



後谷への稜線道入口（通行不可能）から藪の中に入らずに松山道を西へ向かってしばらく進むと下り気味になり、四つ堂が現れます。林の中を更に進むと林道に下り着きます。左の角に「右なり八道 左松山」と告示された道標が現れます。森の中で山道が縦横に走り、方向が分りにくい一帯です。慎重に進路を見極めてください。ここから林道を右に下ります。



後谷の南端の棚田では田植が済んでいました。お爺さんが1人であぜ道の草刈りをしていました。道なりに下ると地神石があります。ここを右に登って行くと、本来稜線通しのとと道が下ってくる地点に至ります。しかし、そこから50mほど上で道は膨大な杉の丸太に埋め尽くされています。いつかそれをどかせる日が来るか？楽しみです。後谷では棚田で米を作っていますが同時に人口減少対策としてあまり手のかからない米麦（？）も栽培しているとのことです。



米麦畑

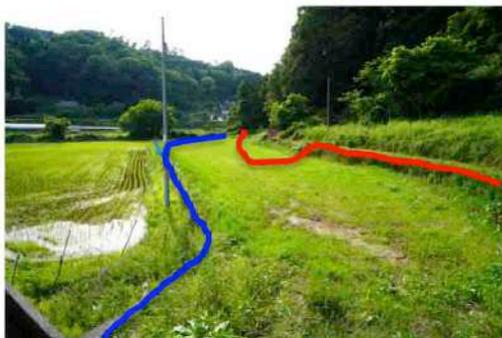




五輪塔へ



石田の辻堂から先には南北朝時代の五輪塔や笹尾城等4つの山城址があり、遠い歴史を感じさせてくれます。とと道は里山の水田脇の水路沿いを北へ向い、杉林の中に入り、島木川の流れ沿いに行くようになります。ところが2022年末、その手前左の山側に有った無人の古い倉庫が崩壊、すぐ下のとと道を超えてさらに下の水田にまで崩れ落ち、とと道を完全にふさいでしまいました。このため、ここを通過するには一旦水田に降りそこを通過して迂回しなければなりません。既に休耕田になってはいますが地権者から水田を通る許可をいただく必要があります。



今後従来の水路沿いに行くとするれば下の写真の赤線ルートが分り易いのですが水路と水田の間に1mほどの段差が有ります。この段差を避けるには下の青線ルートが望ましいのですが地権者に許可いただけるか？どちらも駄目となると宇治から85号線の舗装道路を北上し、笹尾城址の麓の村へ行く橋を渡ってとと道に戻る必要があります。となると残念ながら石田の五輪塔等は拝見できなくなります。地権者との協議の結果をお待ちください。

下の写真は笹尾城址への橋の下流の村と島木川、橋、そして上流の水田と山並みの眺めです。





笹尾城址から西へ下った峠状の地点から延命寺への急坂が始ります。協議会が実施すると道ウォークの場合は、これまでのアルバイトもあり疲れていれば急坂を避けてここから下の部落に下り、そこで待機している伴走バスに乗るのが良いかもしれません。協会ウォークの最大の利点は疲れたら無理せず次のバスとウォーカーの合流地点まで伴走車に乗って休めると言う点です。ここから延命寺までは合流地点は有りません。自分の体調を確認しながら最後の急坂に向かいましょう。峠から上の森の中は、これまで同様未だ草丈は低く問題無く歩けました。時間の都合でその先の延命寺までの山道は未調査です。





延命寺から山道へ入る所にトタン板で作った猪避けが有ります。
通る折は外したトタン板をしっかり元に戻して下さい。

延命寺の水田も田植が済んだばかりでした。ここから先は下りと吹屋への大塚坂だけ。ほっとする所です。
成羽から吹屋へのルートを見て来ましたが、一帯の草藪の状態は6月上旬までは歩くには問題はありませんでした。
ただし、別の問題が2点あることが再確認され、その対策を検討中です。解決次第HP等でお知らせします。

